



総合的な学習の時間・選択教科に 役立つ

国際理解教育の手引き

■平成14年度高校教師海外研修に参加して■



JICA LIBRARY



1192266 [3]



同じ地球の上に生きる



jica
ジャイカ

国内国

J R

独立行政法人 国際協力機構

はじめに

平成15年10月1日、JICAは独立行政法人国際協力機構として、新しいスタートをきりました。新生JICAは、「よりよい明日を、世界の人々と」をスローガンに日本と開発途上国の人々をむすぶ架け橋として、互いの知識や経験を活かした協力をすすめ、平和で豊かな世界の実現をめざしております。

日本は、今でこそ世界有数の政府開発援助（ODA）の供与国となりましたが、第二次世界大戦後しばらくの間は最貧国のひとつであり、諸外国や国際機関等の支援により復興を果たし、その後高度成長を遂げるに至ったという歴史があります。そして、今日の日本の繁栄も開発途上国をはじめとする他の国々との相互依存の上に成り立っています。

JICAは、このような認識から日本の市民の皆様に対して、開発途上国の実情と日本との関わりについて理解を促すことにより、開発途上国と日本の市民を結ぶ「架け橋」となるべく開発教育支援事業を実施しております。

この開発教育支援事業の一環として、私共は、授業を通して多数の生徒を教育する教師の役割を重視し、開発教育や国際理解教育に熱心に取り組んでおられる教師の皆様を対象として開発途上国への研修旅行を実施しております。この研修を通じ、開発途上国の置かれている現状と日本と開発途上国との関係への理解を深められた教師の皆様は、研修で持ち帰られたご経験をもとに、次代を担う生徒の教育に役立てられております。

今般、各学校現場において開発教育・国際理解教育の実践に日々取り組んでおられる上記海外研修に参加された教師の皆様の授業実践例を、このような冊子として取りまとめました。この冊子が開発教育や国際理解教育に関心のある方々の参考資料として、「総合的な学習」等の教育の現場での一助になれば幸いに存じます。

平成16年3月

独立行政法人国際協力機構

国内事業部長 湊 芳郎

はじめに

研修を生かした授業実践例

■子どもの健康から世界を知ろう (セネガルの子どもを通じて)	東 浩通	4
■総合的な学習の時間における「国際理解教育」	渡邊 英一	9
■ディベートを通して視野を広げ思考を深める	小山田里花	14
■発展途上国と私達のつながり —私にも何かできることがある—	榎本 桂子	21
■国際協力の舞台 ～バンングラデシュの場合～	吉川 健治	26
■異文化理解における授業実践	永池 幸一	33
■新教科「平和と共生の科学」	三小田博昭	42
■開発や経済協力はだれのため	犬飼 繁	46
■「メキシコ」から見えること (ラテンアメリカ社会の特色)	藤田 憲弘	50

参考資料

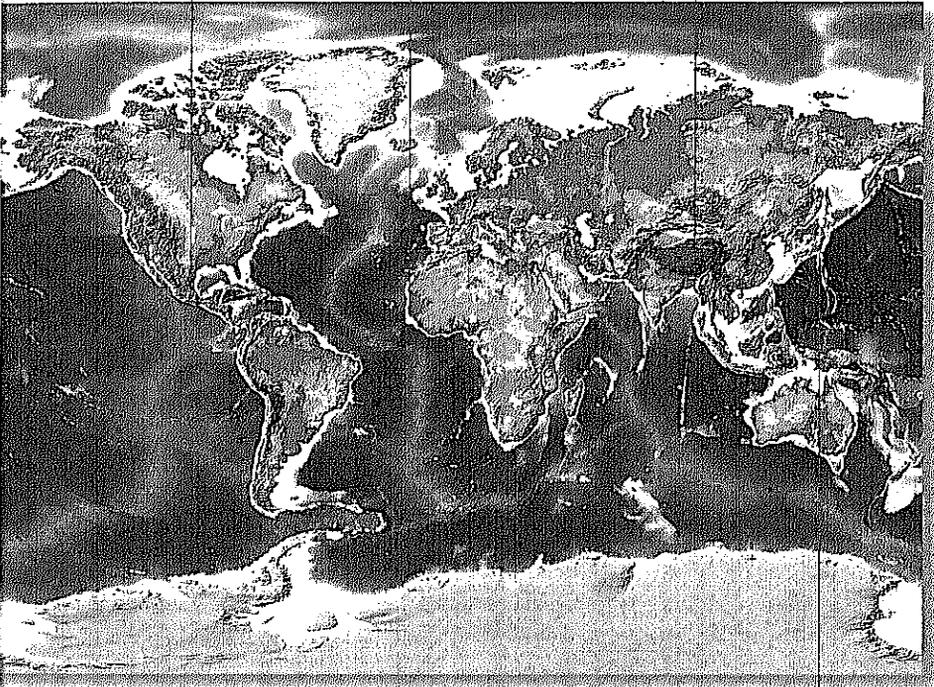
■事前研修	58
■東京研修日程	59
コース別日程／参加者氏名(セネガル)	60
コース別日程／参加者氏名(バンングラデシュ)	63
コース別日程／参加者氏名(メキシコ)	66
■訪問国概要	69
■開発教育関係団体及び教材紹介	72
■JICAはこんなことをしています	80
■地域国際化協会一覧	81
■問い合わせ先	83



1192266 [3]

研修を生かした授業実践例

教師および生徒の原文を生かして掲載しておりますので、一部表現のばらつきがありますがご了承ください。



● Bangladesh

● Senegal

● Mexico

and Japan

子どもの健康から世界を知ろう (セネガルの子どもを通じて)

東 浩通 保健体育
AZUMA HIROMICHI

実践校・東京都立八潮高等学校
現任教・東京都立深沢高等学校

●実践教科……………保健体育（保健）
●時間数……………5時間
●対象生徒・学年……………2年生 2クラス
●対象人数……………81名

カリキュラム

実践の目的

セネガルと日本の子どもの健康状態を対比することで、開発途上国の抱える健康問題を理解する。また、このことに対する感受性を高め、国際協力を積極的に関わろうとする態度を身につける。

授業の構成

時間・テーマ・ねらい	時間数	教材
1時間 セネガルの子どもを知る 開発途上国の子ども生活・環境を理解する。	(1) ビデオと写真を見てセネガルの風土・子どもの生活の様子を知る。 (2) (1)と日本の状況を比較する観点からセネガルの印象を書く。	・セネガルで撮影したVTRと写真 ・絵葉書
2～3時間 セネガルの子どもを健康を考える 開発途上国の抱える健康課題と、その背景にある貧困問題の理解。	(1) セネガルと日本の子どもの生存と発育に関する資料を基に、開発途上国の子どもの健康が脅かされている状況を知る。 (2) グループディスカッションにより、(1)の原因について考察する。	・パワーポイントで作成されたスライドとその印刷資料 (資料1)
4時間 開発途上国の貧困問題を考える なぜ貧困から抜け出せないのか理解し、その克服方法を考える。	(1) 「貧困の輪」によりグループで、貧困の悪循環とその克服方法について話し合う。 (2) また我々ができることや求められていることについても考える。	・模造紙 ・名刺大の紙 ・マジック ・のり (資料2)
5時間 国際協力の実際について知る 環境や健康問題では国際的規模での活動を必要としていることを理解する。	(1) セネガルで活躍している専門家や青年海外協力隊(JOCV)の活動から国際協力の実際の様子について知る。 (2) 保健・医療の国際協力を行っているJICAや様々な国際機関、NGOの活動を知る。	・セネガルで撮影したVTRと写真 ・パワーポイントで作成されたスライドとその印刷資料 (資料3)

授業の詳細

1時間 セネガルの子どもを知る

1. 教材

セネガルで撮影したビデオを25分に編集したVTRと写真、絵葉書。

(主な内容：ステップ気候の風土、食事風景、家、喜捨を求め路上で物売る都市の子ども、農村で親の手伝いをする子ども、遊び、踊り)

2. 内容

VTRと写真・絵葉書を見た後、セネガルに対する印象を各自記入。

3. 生徒の反応 (VTRから受けた印象から抜粋)

[日本に似ていると思うものは?]

- ・米が主食で食事は女性が作る。
- ・すぐに踊り出すお祭り好きな国民性。
- ・都市は人が多く車の往來が激しい。
- ・昼間からぶらぶらしている男の大人が多い。
- ・働き者も多い。

[初めて見るもの、想像のつかないものは?]

- ・兄弟が多く手伝いをよくして親を助けている。
- ・設備が貧弱な病院や学校。
- ・ボロボロの服を着ている子ども。
- ・廃品利用の手作りのおもちゃで遊ぶ子ども。
- ・女性が毎日井戸で水汲みをし、井戸水はけっして清潔には見えない。

[最も印象に残った人は?]

- ・路上で物を売る子ども。
- ・セネガルダンスに興じる人々。
- ・小さな子どもをおんぶし、井戸の水汲みをする同年齢と思しき女子。

[セネガル全体の印象?]

- ・表面上は楽しく暮らしているように見えるが、実は貧困で、体調のよくない人が多そうだ。
- ・生活することが厳しい国だ。
- ・子どもも大人も皆明るい。
- ・子どもの目がキラキラしている。

4. 私の所感・反省点

生徒は、最初気候や風土・肌の色の違いに戸惑いを見せていたが、セネガルダンスや子どもの陽気さにひかれ、次第に興味を示していた。VTRの編集にあたって、私の感じたことを伝え、かつ偏った印象を生徒に与えないという、ある意味矛盾することを留意事項とした。生徒は、セネガルに対して概ね肯定的でバランスのとれた受け取り方をし、子どもの生活ぶりについてイメージを持てたようだ。

2時間 セネガルの子どもの健康を考える

1. 教材

- ・撮影した写真やJICA・ユニセフの資料等を基にパワーポイントで作成したスライド43枚 (資料1)

- ・スライドの印刷資料 (メモ欄付き)

2. 内容

スライドをプロジェクターで映しながら、私が解説を行う講義形式。その際セネガルで見聞きした具体的な事柄も交えながら説明した。スライドは、セネガルと日本、開発途上国と先進工業国の健康状況が対比できるように工夫した。

[スライドの主な項目]

- ・子どもの健康に関わる基本統計 (乳児死亡率・5歳未満児死亡率・就学率等)
- ・保健指標 (改善された水源を利用する人の割合・予防接種率等)
- ・女性指標 (付添い出産率等)
- ・栄養指標 (低体重児出生率)

3. 生徒の反応

開発途上国の子どもが健康に育っていくためには、厳しい環境と闘わなければならないことに、驚き悲しむ者が多かった。「観念的に理解していたことと現実との差の大きさにビックリした」と一人の生徒が話したが、他の多くの生徒も同じ感想を持ったようだ。

4. 私の所感・反省点

講義形式の授業形態であるため、生徒が飽きずに積極的な取り組みをしてくれることを期待し、パワーポイントでスライド教材を作成し使用した。これにより生徒の興味を引き出すことができた。また客観的・視覚的な資料を提示することで、生徒の理解を深め、問題意識の芽生えが見られた。しかし情報の精選化が図れず、生徒にとって、焦点を絞りにくい面もあったのではと反省する。

4時間 開発途上国の貧困問題を考える

1. 教材

- 模造紙、名刺大のカード、マジック、のり

2. 内容

開発教育の参加型学習「貧困の輪」。5人ほどのグループで話し合いながら貧困について考える。

- (1) 貧困の原因カードをその関連性について考慮しながら円の上に並べ、貧困の輪を作る。
- (2) 貧困の悪循環を断ち切る手立てについて議論する。(資料2)

3. 生徒の反応

ほとんどのグループが活発に意見調整をしながら考えをまとめていた。議論を進めながら、貧困の悪循環に囚われ苦しんでいる開発途上国の人々について思い、怒りを感じ表していた生徒もいた。

4. 私の所感・反省点

私も生徒も参加型学習を行うのは初めての試みであったので、スムーズに授業が進むのかと心配していたが、生徒は意欲的に取り組んでくれ、ねらい通りの成果をあげることができた。豊かさの中で育てている生徒にとって、対極にある貧困問題について理解し考えるには、参加型学習は非常に適した手法である。50分間では、発表の時間がとれず、まとめができなかったことは残念。発表の機会を与えれば、多くの考え方・感じ方を共有できたであろうし、プレゼンテーション能力を育てる効果もあったと思う。

5時限 国際協力の実際について知る

1. 教材

- ・撮影した写真やJICA・ユニセフの資料等を基にパワーポイントで作成したスライド23枚(資料3)
- ・スライドの印刷資料(メモ欄付き)

2. 内容

スライドをプロジェクターで映しながら、私が解説

を行う講義形式。現地で見聞きした具体的な国際協力の現場を紹介し、保健・医療に関わる国際協力について理解しやすいよう配慮した。

3. 生徒の反応

国際協力の最前線で活躍しておられる方々の話は非常に説得力があるようで、熱心に授業に取り組む様子が見られた。また日本がトップドナーであることに對して反応が多く、率直に驚いたり、誇らしい気持ちを表していた。

4. 私の所感・反省点

事前の開発途上国の抱える問題について学習を重ねてきたためか、今回の授業に対して興味を示す生徒が多いように思われた。またJICAやユニセフ等の活動が身近なもの感じられたようで、視野を広げ、社会的な事柄に対する関心を広げることにも成果があったと考える。

成果と課題

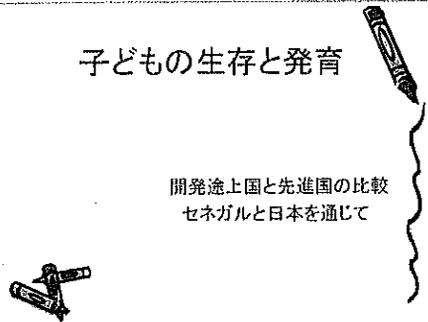
科目「保健」の保健・医療に関わる国際協力について、今回の視察で得たものを生かす授業を試みた。日頃知識伝達型に終始する単調で面白みのない授業が、セネガルの人々やJICAの力を借りて力強く楽しいもの変わった。

今後の発展として、他教科と連携を図り、総合的な学習の時間で取組んでみたい。例えば、貧困の背景にある諸問題は地歴公民科と関連性が強い等。さらなる研鑽を積み、地球市民として広い視野とヒューマニズムにあふれた感性をもつ生徒を育てたいと思う。

資料1 2・3時限で使用したスライド (一部を抜粋)

子どもの生存と発育

開発途上国と先進国の比較
セネガルと日本を通じて



乳児死亡とは

- 生後1年未満の死亡をいう。
- 乳児は、衛生状況、栄養状態など健康に関する事柄の影響を最も受ける弱い存在。
- 健康指標の一つ (その国の健康水準を表す)



授業で使用したスライド
左：セネガルの子どもの健康状態はどうか？スライドを参考に皆で考えていこう。
右：乳児死亡率が子どもの健康の様子を示す物差しになる。

左：乳児死亡率を高める要因の一つは、お母さんと子どもの衛生状況が悪いこと。
右：セネガルのある地方都市の病院の様子。医師がいないし、設備も貧弱。ましてや農村部では、もっと厳しい医療環境であることも伝えた。

乳児死亡率を高める要因 3

母子衛生の不備

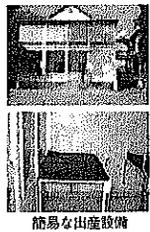
- そもそも医療従事者が少ない
- 予防接種率低い
- 介助付き出産が少ない



地方都市の病院



医師の不足から看護士が診断治療を行う



簡易な出産設備

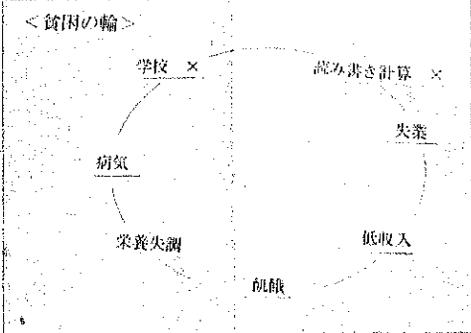
資料2 4時限 貧困の輪の授業風景

<貧困の輪>

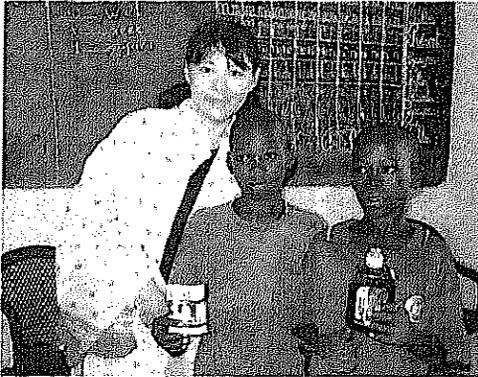
- 貧困の原因カードを並べ「貧困の輪」を作成する。
- どこで貧困のサイクルを断ち切るのが、もっとも実行しやすいか？
 - どこで？
 - その理由は？
 - それを実行するためには何が必要か？
- 貧困のサイクルを断ち切った後、再び輪がくっつくためにはどうすればいいか？

授業風景
上：「貧困の輪」女子6人のグループでディスカッション。
右：参加型学習「貧困の輪」を用いた授業風景。グループで貧困の悪循環を図で考えている。

授業で使用したプリント
上：「貧困の悪循環」あれこれと意見を出し合いながら、20分程度で完成。
下：「貧困の輪」の教材。女子4人のグループによるもの。



資料3 5時限で使用したスライド（一部を抜粋）



授業で使用したスライド

左：セネガル・ティオバワンヌ市近郊の村にある小学校。青年海外協力隊・看護師の後藤さんと小学生。小学生の自主活動による救急箱の管理と保健活動を指導している。

右：JICAは、青年海外協力隊を派遣したり、施設・設備の充実化を図るなど、保健医療分野で支援活動を行っている。

引用文献

「国際保健学序説」 柄内拓生著（へるす出版）

「新しい開発教育の進め方」 開発教育推進セミナー編（古今書院）

「いのち、開発、NGO—子供の健康が地球社会を変える」 デイビッド サンダース著（新評論）

JICA INFO-KIT

JICAセネガル事務所 ホームページ

「統計で見る子供の10年」 ユニセフ編（日本ユニセフ協会）

「2001年世界子供白書」 ユニセフ編（日本ユニセフ協会）

今加藤先生はこうおっしゃる

私は専門のサッカーを通じて欧米の人々との交流経験は持っているのですが、開発途上国についての実体験は乏しい状況にありました。そのため担当の保健の授業では通り一遍の知識伝達型の授業に終始してしまいがちでした。そこでまず私自身が開発途上国の状況を知り、多様な価値観を理解し、積極的に国際協力に関わっていこうとする態度を持ちたい、そのことが教育実践を裏切るものに変え、生徒の国際理解を深化させ、国際協力への芽を育むことになると思い応募いたしました。研修中は私の目と耳で感じたことをダイレクトに生徒に伝えたいと思います。勤務校では総合的な学習の時間において「未来を拓く」というテーマ設定のもと各教員が講座を開講し、生徒が自由に講座を受講するプログラムがあります。私は専門のサッカーの関連から「アジアの蹴球文化を研究しよう」という講座を設定しています。そこで東南アジア生まれのセバタクローと日本の蹴鞠をとりあげ、実際に体験し、次に文化・価値観・国民性の違いなどの研究に発展させ国際理解につなげていくことをねらいとしています。同じアジア人でありながら生活ぶりや考え方の異なる点が多いことに驚きを持つと同時に、相互に影響し合っていることを知り、生徒の国際理解に役立ったように思います。

総合的な学習の時間における 「国際理解教育」

渡邊 英一 数学・情報

WATANABE EIICHI

茨城県立東海高等学校

- 実践教科……………総合的な学習の時間
- 時間数……………7時間
- 対象生徒・学年……………1年生
- 対象人数……………16名

カリキュラム

実践の目的

国際化の進むなかで、自分とは違う文化や、歴史・習慣などについて学習し、それらを背景とした異なる

考え方を認め合い、お互いを理解し合おうとする態度を育てる。そして「地球市民」としての生き方について考えていく。

授業の構成

時間・テーマ・ねらい	実践内容	使用教材
1時間 <クラス> 異文化理解の大切さを考える	ワークショップ「ひょうたん島問題」*を通して異文化理解について考える。	・自作プリント ・開発教育ブックレットシリーズNo.2 (資料1)
2時間 <学年> 地球を身近に感じる	NPO法人による「地球のステージ」上演	
3時間 <選択講座> セネガルやアフリカのイメージ	フォトランゲージ「何が写っているかな？」	・セネガルの写真 (資料2) ・セネガルの教科書 ・画用紙他
4時間 <選択講座> セネガルにおける日本の国際協力①	「Myらんど」(セネガル編)のビデオを見て日本の国際協力の概要について知る。	・ビデオ ・自作プリント
5時間 <選択講座> セネガルにおける日本の国際協力②	セネガル地図局や森林局・医療関係従事者養成機関における専門家達の活躍	・自作スライド ・自作プリント ・海外研修資料 ・写真・ビデオ (資料3)
6時間 <選択講座> 自分たちに出来る国際協力	今までのことをふまえて、自分の出来る国際協力について考える。	・自作プリント
7時間 <学年> 学習発表会	各講座ごとに学習したことや自分たちの意見を発表する。	・写真他

*「ひょうたん島問題～多文化共生をめざして～」…巻末の開発教育教材リストを参照。

授業の詳細

1時間 異文化理解の大切さを考える

国際理解教育を入り口として異文化を理解しお互いを尊重しながらともに生きることの大切さを考えるためにワークショップを行った。JICA筑波国際センターで開催されている国際理解講座の受講生を中心とした筑波大学の学生6人にゲストティーチャーとしてきていただき藤原孝章先生（富山大学教育学部）が考えられた「ひょうたん島問題」から「ひょうたん教育の危機」について考えていった。この様なワークショップは生徒たちにとって初めての体験であったが、それぞれの役割に分かれ、自分の立場を考えながら、みんなで仲良く共存していくためにはどうしたらよいか、活発な意見交換をする事が出来た様子であった。また、NGOなどで活躍している大学生達の話を聞き生徒達は世界というものをより身近に感じられたようであった。

生徒の感想から

- 自分では一番良いと思っている意見が他の人では一番下など、考え方がいろいろあることに気がつきました。文化の違いを一緒にするのは難しいと感じました。
- 国際理解は思っていたより難しかった。みんながうまくやっていたらいいと思ったけれど、現実のことになったら自分のことを優先してしまうかもしれない。人の意見を聞くことは大切だと思った。
- 何の理解もせずに、外国人だから自分たちとは違うと差別をしたりせずに、きちんとその国のことも知って問題を考えていくべきだと思った。
- 教育は国内だけの問題で終わらせるのではなく、外国から来た人たちもいかにやりやすい教育の方法があるのかと考えることを考えなければならぬと思った。
- 他文化の人たちが一つになるのは難しいけれど、少し譲り合えばみんな仲良くできると思う。
- 差別は良くないとは思いつつも、実際に自分がその国の人だったらと考えると、やはり差別してしまう部分があるということが分かりました。
- 自分の意見を言うだけでなく、友達の見解をもっと聞くことができた良かったと思う。
- 今回の「ひょうたん島問題」について考える事で、文化の違い

いで起こる問題がたくさんあることが分かり、それを改善することはとても大変なんだなあと思いました。

2時間 地球を身近に感じる

本校体育館にNPO法人「地球のステージ」代表の桑山紀彦氏をお招きして、新しいタイプの講演会「地球のステージ」を実施した。世界各国でNGO活動をしてきた桑山氏が撮りためてきた貴重な映像をコンピュータで編集し、「ビデオ映像」+「ライブ音楽」と、「スライド映像」+「語り」という形で、世界各地の紛争や貧困で苦しむ人々の生活について、私たちに熱く訴えかけるものである。そして、その語りの中で、桑山氏は、東ティモールでの経験として、「大人は戦争で家や車をみんな壊していただけたが、子どもたちはそのゴミの中から新しいおもちゃを作り出していったよね。」と語りかけた。生徒たちは悲惨な光景においても、逞しく元気に生活している子どもたちの明るい笑顔に心打たれている様子であった。

3時間 セネガルやアフリカのイメージ

この時間より選択で希望した生徒を対象とした授業になる。まず、アフリカのイメージを絵に描いてもらう。ほとんどの生徒が草原とライオンやキリンなどの野生動物たちの絵を描く。何人かは黒人と村の様子を描くが、ほぼ裸の人物が多く家も草などで作ったものが多い。またこちらが予想していた砂漠を描いた生徒は一人もいなかった。そこで写真や絵を提示し（資料2）それぞれについて「何が写っているか」「どの様な写真（絵）なのか」グループで話し合いながら考えた。そして、それぞれの絵について簡単に説明しながらセネガルのことについて理解を深めていった。生徒達はまず「ビルがあることに驚き」そして「女性達の美しさに驚き」「フランスとの関係に胸を痛め」ていった。

4時間 セネガルにおける日本の国際協力①

平成14年7月から9月にかけて放送されたODA紹介番組「Myらんど」を見た。牡蛎の養殖を指導するとともに村人にマングローブの大切さを伝えている青年海外協力隊員や水産加工技術を指導する専門家の活動のほか、給水塔の建設現場や、セネガル日本職業訓練

センターで学ぶ若者たちの様子を見て、生徒達は日本の援助や協力がどの様にセネガルの人々の生活に貢献しているかを知った。日本の援助というどうしても良く報道される「ダム」などの大きな建築物ばかりが目についてしまうが、その国の人々を思う心が協力の出発点だということに気付いたようであった。

6時限 セネガルにおける日本の国際協力②

スライド（資料3）と教師海外研修をもとに作成したプリントを使い、自分が見てきたセネガルについて生徒達に話をした。生徒達は、いろいろな方からお聞きした失敗談や現地での生活、この仕事に携わるようになったきっかけなどに強い興味を示した。そして、現場で多くの女性が活躍していることに驚きを感じたようであった。また、北海道立滝川高校の小野寺先生が制作された協力隊員や専門家の方たちへのインタビュービデオでは協力隊員の跡部さんが「協力隊の活動に興味を持つようになったのは、高校時代に色々な国で働いている医者の講演を聞いたのがきっかけであった」と話している姿をみて、自分もなにかやってみたいと感想を話してくれた生徒もいた。ただ、1時間の中に多くの内容を盛り込み過ぎたため、やや消化不良気味になってしまった。2人ぐらいの方にスポットを当てていくと、より深いところで考えることができたのではないと思う。

6時限 自分たちに出来る国際協力

前回までの授業をもとに自分たちが何が出来るかをKJ法を用いて考えていった。まず、最初に今世界の人々に何が必要かをグループで出し合った。そして、その中から自分がやってみたいこと、出来そうなことについて考えていった。ただ、自分が考えていたようにはなかなかグループの話し合いが進まなかった。そこで、JICAの「地球家族・セネガルから見た日本の開発援助活動」を見てさらに考えていった。また、今までの経験から「募金をして助けよう」という意見も多かったが、「まだはっきり何が出来るか分からないけど、地球や国際協力について学んでいくことが、今自分に出来ることではないか。」という意見もあり心強く感じられた。

最後に「今、不況の中にある日本としては、これから国際協力をどの様にしていってらよと思いますか」と生徒達に問いかけたところ、ほとんどの生徒達が「これからも国際協力を続けていくべきだ」と答えた。

7時限 学習発表会

今まで学習したことについて発表し、共に生きることの大切さを訴えた。

資料1 1時限 ワークショップの様子



内容についての説明がありました



自分の役割を用紙に記入します



大学生も親切に指導してくれました



活発な意見交換が行われました

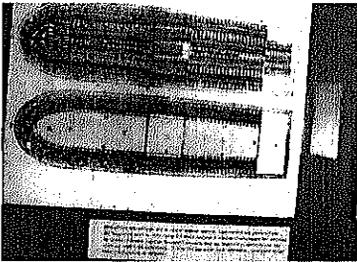


まとめを班ごとに発表しました

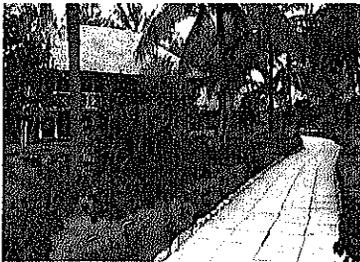


自分の意見について説明をする生徒

資料2 3時限 (フォトランゲージ) で使用した写真



奴隷の乗船の仕方



リゾートホテル



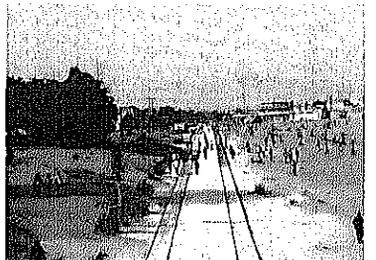
診療所の壁の絵



ダカールの街並み

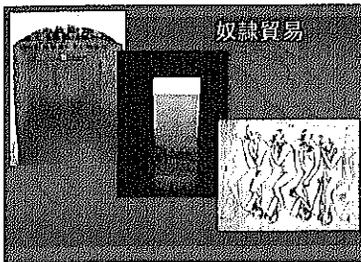
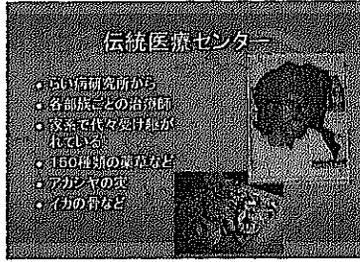
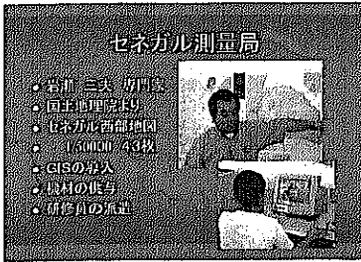


歯磨きをする女性



線路と広場で遊ぶ子ども達

資料3 5時限で使用したスライド



【使用したビデオ】

- 4時限 「Myらんど」(セネガル編) テレビ東京
- 5時限 北海道立滝川高校 小野寺先生制作 インタビュービデオ
- 6時限 「地球家族・セネガルから見た日本の開発援助活動」 JICA

【参考にしたホームページ】

- JICAセネガル事務所 <http://www.jica.go.jp/senegal/index.html>
- NPO法人「地球のステージ」 <http://www4.dewa.or.jp/stageone/default.htm>
- 開発教育協会 <http://www.dear.or.jp/>

参加動機およびプロフィール

「セネガル」に対して今まではパリ・ダカールラリーのある国という程度の認識しかありませんでしたが、今回の研修への応募をきっかけに色々調べてみると、美しい森林があったり、米を主食として魚を多く食べるなど驚きの連続でした。自分の中で今新しいアフリカのイメージが広がろうとしています。ぜひこの研修に参加してセネガルの社会事情や現地で行われている様々な協力活動に接し、自分の経験を深めると共に、その経験を帰国後国際理解教育や教材の開発などを通して生徒たちに伝えていきたいと考え応募しました。今までの国際理解教育の取り組みとしては、担任するクラスでNGOの方を招いてミニ講演会を実施したり、タイの教育支援をしているNGOと連携してスタディツアーなどを実施してきました。

ディベートを通して視野を広げ思考を深める

小山田 里花

国語

OYAMADA RIKKA

山形県立荒砥高等学校

- 実践教科 …………… 古典
- 時間数 …………… 10時間
- 対象生徒・学年 …………… 3年生(カレッジコース)
- 対象人数 …………… 17名

カリキュラム

実践の目的

初めに、なぜ古典で開発教育を？とお思いになられる方も多いのではないのでしょうか。少し説明を加えるならば、古典を学ぶ意義と考えた場合いろいろあると思われまます。基本的事項についてはもちろんですが、その中で特に、「古典とは日本の文化」という意識づけを授業を通してさせたいという気持ちがあります。生徒につねづね言っていることは「英語で古典を説明できる日本人が目標だ」と。海外に行くと、もしくは国内で外国の人と話すとき、天気の話や自己紹介だけでは話はすぐ終わります。しかし自国の文化や自分の内面を伝えられれば、国際交流はより意義のある楽しいものとなり得ます。それは、外国語が話せるかどうか以前の問題として人について回るものです。そこから、国際教育、そして開発教育へとつないでいきたいと思っています。

また、最近の私の教育姿勢として「広く深く」があります。視野と思考力の面においてなのですが、変革を続ける社会に対応するのに必要なことだと思っています。特に、本校生は学力が高いとは決して言えません。より柔軟に賢く人生を重ねられるよう、日々尽力したい。その観点から、具体的な目的として次の4点を掲げます。

- ①情報を的確に収集して開発途上国の存在を知り、広い視野をもつ。
 - ②正しい発表の姿勢（丁寧な表現で語尾をはっきりと、大きい声で）をつくることのできる。
 - ③自分の考えを文章及び口語で表現し、相手に伝えることのできる。
 - ④ディベート及び作文を通して、人権・平和・環境問題・共生（国籍・民族・文化・身体・年齢などの違いを認める）について考えを深める。
- これらをもとに以下の授業を展開しました。

授業の構成

時間・テーマ・ねらい	内容	資料
1時間 ディベートについて理解し、意見を交換し合える土台をつくる。	ディベートとは？をプリントで説明 ⇒模擬ディベート（机を移動して仮の班で） ⇒エクササイズ（アイスブレイキングの役割）	・ディベートについての自作プリント（資料1）
2時間 セネガルについて興味を抱き、理解を深める。	エクササイズ（簡単なグループエンカウンター） ⇒セネガルの訪問先での話 ⇒わかったこと、疑問点、感想をまとめる ⇒班発表（こちらで指示） ⇒論題の選択（班ごと）	・セネガルで撮影した写真（5枚）
3～4時間 セネガルの現状を知る。	ビデオを観る ⇒内容より分かったこと、感想、疑問点をまとめる	・セネガルで撮影したビデオテープ使用（資料2）

10月17日(水)

10月18日(木)

5~6時限

情報を収集し、論理を組み立てる。

情報収集、論理を組み立てる
(宿題：「国際協力」「開発途上国」に関する新聞記事を切り抜き、わかったことと感想をまとめる)

・各自図書室にて資料収集

7~9時限

ディベートマッチを通し思考を深め発表の技術を学ぶ。

ディベートマッチ本番

・自作プリント (資料1)

10時限

作文を通して考えを深める。

作文を書く
テーマ「開発途上国や国際協力について考えること」

(資料3)

授業の詳細

授業内容及び教材	生徒の反応○・評価●
<p>1時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ディベートについてのプリント(ディベートの歴史、注意点、教室レイアウト、ルール)で説明。(資料1) 参考文献(『月刊国語』93.5別冊『教室ディベートハンドブック』)を使用して模擬ディベートを行う。 エクササイズで誕生日が早い順に並び円をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●ディベートについて正しく理解し、実践する下地ができたか。 ○しっかり取り組んでいた。 ●ディベートの言い回しを習得し、流れをつかむことができたか。 ●お互いに気持ちを開き、意見を交換し合える土台をつくれたか。 ○自然クラスではないためか少々かたさが見られた。
<p>2時限</p> <ul style="list-style-type: none"> エクササイズで、簡単なグループエンカウンターを行う。セネガルで撮った写真をA4の用紙にプリントアウトし、バラバラに切ったものを一人1枚持ってもらう。その1枚を他のパーツと組み合わせて1枚の写真をつくるために、他のパーツを持っている人を探す。写真が出来たらどんな様子を表しているものか考える。発表。 ①伝統医療の薬草をふるいにかけている女性 ②セネガルの料理 ③砂漠化の様子 ④船に物乞いで泳いで集まる少年と海水浴の様子 ⑤ビニールテープと干し草を手で編んだかごを道端で買っている様子 <p>・わかったこと、疑問点、感想をまとめる。 ・班発表(こちらで指示)の後、班長を決め論題の選択を班ごとに行う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ●クラスメイトと積極的に交流し、写真を組み立てようとしているか。写真の内容について真剣に考えることが出来たか。 ○いずれも意欲的に活動していた。 ●セネガルでの医療の実情を知る。 ●肩米を輸入して食べている事、ピーナツが主要輸出品であることを知る。 ●砂漠化を実感する。 ●貧富、宗教の違いからくる差を知る。 ●露店での売買や、女性が手工業でお金を稼いでいる現状を知る。 ○しっかり取り組んでいた。 ●真剣に話を聞き、考えを深めることが出来たか。 ○初めて知ることが多いようで、刺激を受けていた様子が文章からうかがえた。 ●班毎にまとまろうとしているか。 ○論題に興味は示していた。
<p>3~4時限</p> <ul style="list-style-type: none"> セネガルで撮影したビデオを観る。随時説明を加え、内容より分かったこと、感想、疑問点をまとめる。 《内容について》 ・チュブヤップ、マンゴーを食べている様子 ・伝統医療センターでの様子 ・レックローズにてタイヤが砂にはまって車を手で押している様子 ・砂漠化しつつある場所を砂に足をとられつつ歩いている(物乞いの少年たちがくっついて離れない)様子 ・瘦せた家畜 ・井戸(水を汲んでいる場面、既に涸れているもの) ・現地の村の人々のダンス ・サッカーボールを日本人研修員がプレゼントしている様子 ・ゴレ島にて学校の教室(掃除されておらず散らかり放題)の様子 ・ゴレ島にて奴隷の館、資料館の様子 	<ul style="list-style-type: none"> ●真剣に話を聞き、考えを深めることが出来たか。 ○初めて知ることが多いようで、刺激を受けていた様子が文章からうかがえた。抱いた疑問を率直に文章に表現していた。(資料2を参照)

授業内容及び教材	生徒の反応○・評価●
<p>5-3時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ●図書室にて書籍、新聞、インターネットを使用して情報を集める。それらをもとに論理を組み立てる。 	<ul style="list-style-type: none"> ●意欲的かつ積極的に学習できたか。 ●情報を的確に収集し、広い視野で考えられたか。 ○指示、助言を与えつつの進行ではあったが、取り組みは概ね良好であった。
<p>7-3時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ●ディベートマッチ本番 (詳細については資料1を参照) 	<ul style="list-style-type: none"> ●的確にまとめられた文章を元に、丁寧な表現で語尾をはっきりと、大きい声で自分の考えを適切に相手に伝えられたか。 ○ディベート全体の流暢さには欠けたが、発表の中身と態度は概ね良好であった。思考の深さはもう少し欲しいところであった。
<p>8-0時限</p> <ul style="list-style-type: none"> ●作文を書く。 テーマ「開発途上国や国際協力について考えること」 	<ul style="list-style-type: none"> ●考えを深め、適切に文章で表現できたか。 ○比較的しっかり取り組めたとと言える。(資料3を参照)

2時限で使用した写真(一部を抜粋)

(撮影: 笹館孝一)

左: 伝統医療の薬草をふるいにかけている女性

中: セネガルの料理

右上: ビニールテープと干し草を手で編んだかごを道端で買っている様子

右下: 船に物乞いで泳いで集まる少年と海水浴の様子



成果と課題

- 本校は山あいの小さな学校である。外国に行ったことがない、ましてや開発途上国のことは聞いたこともないという生徒がほとんどの本校生にとって、この教材は多分に刺激的だったと言える。その中で、「セネガルに行ってみよう」との発言がいくつかあり、喜ばしい事であった。「広い視野」に近づくことが、少しはできたかと思われる。
- 疑問点を3回に分けて挙げさせた。疑問を抱くことから学習が非常に発展したので大変効果があった。
- 「学校に行ける人は4割の人しかなくて、私達がこうやって学校に行っていることがとても素晴らしい裕福なのだと思います。」という感想があった。広く世界を見ることで新たに気付くことがあり、気

付いたことによって行動が変わる、というのは非常に良い循環だと思った。

- 自分達だけで自主的に調査を深め、進める姿勢には、指導の余地があると感じた。評価をもっと工夫すれば意欲も上がるのではないか。
- 国語という教科の中での開発教育ということで、口語表現についての指導に力を入れた。ディベートがこちらでも生徒も今回が初めてで戸惑う場面もあったが、発表の技術が少しは定着したようだ。丁寧に細かい指導を今後も心掛けたい。
- つづり方においてもそれぞれ頑張ってくれた。日々の作文指導の土台もあったとは思いますが、この授業を通して考えが期待以上に深まり、凝縮された文章が書かれた。

資料1 1時限、7～9時限 ディベートについての自作プリント

[ディベートの歴史]

古代ギリシャに端を発し、欧米諸国に広がったもの。現在では学校、企業、議会の場でも行われている。アメリカでは毎年300～400の大会が行われている。

[ディベートマッチの注意点]

- 1 「ディベート」は一定のルールの元に、公正に議論を戦わせて相手や聴衆を説得する技術を訓練する「ゲーム」である。「真のディベーター」は、試合後はお互いの健闘を讃え合い「勝っても悔しい」「負けても嬉しい」といった一見矛盾した感情も起こってくる。
- 2 勝敗よりも「論理的思考」の学習であるので、勝った方が正しいとは限らない。
- 3 「人」と「意見」とを分けて判断すること。また「意見」には明確な根拠が必要。
- 4 話し手は、身振りや抑揚を工夫して、発言内容がより伝わりやすくすること（「結論」を先に述べる、語尾をはっきり言う）。
- 5 聞き手は話し手に集中し、発言内容を確実に理解すること。また、メモをとること。
- 6 聴衆（ジャッジ）は次の点に留意して審査すること。
 - ①論旨が明確で首尾一貫しているか。
 - ②客観的な姿勢で確実な論証がされているか。
 - ③相手の発言内容とその返答がかみ合っているか。
 - ④独断・偏見・論理のすり替え、などがないか。
 - ⑤冷静で誠実な態度が感じられるか。
 *審査は審査シートに記入
- 7 時間配分について
 - ・会場設営 5分
 - ・マッチ

第一ラウンド	肯定側立論 (A)	4分
	否定側立論 (B)	4分
	作戦タイム①	3分
第二ラウンド	肯定側 Aに対する反対質問 ⇒否定側の応答	4分
	否定側 Bに対する反対質問 ⇒肯定側の応答	4分
	作戦タイム②	4分
第三ラウンド	自由論戦	4分
	作戦タイム③	4分
第四ラウンド	肯定側結論	2分
	否定側結論	2分

計35分

・まとめ
ディベーター：ディベートを通してわかったこと、考えたこと、感想をまとめる。

聴衆：審査用紙記入 ⇒回収
司会、計時：審査用紙開票 ⇒審査結果発表－10分

[ルール]

- ①3つの班に分ける。3試合行う。論題は3つ。
「恋の告白は手紙か電話か（リハ）」
「国際協力は必要か」
「開発途上国に援助は必要か」
- ②発言は決められた場面で、司会者が指名してからその場に起立して行う。
- ③言葉づかいは丁寧にし、冷静かつ丁寧な口調で相手への敬意を忘れない。
- ④司会者が「時間です」と合図したら、言いかけている一文は最後まで言いきってよい。
- ⑤進行は公正を期すため司会者が行うので、指示に従うこと。

[テスト問題]

テーマ「開発途上国や国際協力について考えること」
で作文を600字以上書く。

資料2 3～4時限 生徒の感想 ～セネガルのビデオを見て～

わかったこと、気がついた点、感じたこと

・牛がやせすぎていて一体何のために飼っているのだろうと思った。食べられる場所はないと思う。
「私もそう思います。実際、家畜は草を食べてしまうので、砂漠化の問題にもつながっているんだよ。」

・日本は砂漠化はまだ全然だけどセネガルは始まっている。同じ地球に住んでいるのにこんなに違うのだなと思った。

「地球は広いからね。帰ってきた時、電車から眺めた日本の景色のみずみずしいこと。感動したね。でもそんな日本にも砂漠化の日が訪れたりして!」

・医者ではない人が患者を診ること。

「実際問題治るから、長年続いでるんだらうね。日本人の感覚から考えるとあやしい気もするけどね。」

・日本人が他の国の人を助けるボランティアをしていることは知っていたけど、実際の仕事内容や大変さ、家族と離れて暮らす人がいることに改めて気づいた。

・青年海外協力隊の人は大変だなあと思った。

・緑を増やすために頑張っていてすごいと思った。

「えらいと思った。世のため人のため。」

・まだ小さい子どもなのに、小学校にも行かずに働いているので大変なんだと感じました。あんなに塩の山がたくさんあるのにはびっくりしました。

「小学校、行きたくても行けないんだよね。行っても全部フランス語で教科書が書かれているのでちんぷんかんぷんだし。セネガルには出版社が無くてセネガル語の本は出されていない。口承文化の国だからね。」

・道路も整備されていないし家もあまり立派に建っていない。でもその生活を守るために子どもや大人達は一生懸命頑張っていてすごいなと思った。

「人が懸命に生きる姿は、美しいね。」

・外国人はやはり肌が黒かった。

「黒人ってきれいだよ。プールに入ったとき、水着が似合ってた。」

・セネガルでは約束を守らなかつたり時間とか平気で遅れるんだなと思った。

「途上国って、えてしてそういう傾向があるかもしれない。その価値観には宗教とか、絡んでいるのかな。」

・あまり行きたいとは思わない。とても暑そうだし、砂漠化が進んでいるところに行きたいと思わない。料理は美味しそうだった。

「大変疲れました。料理も、おいしいんだけど私の口には合わなかった(油っこい)。」

・前、先生から聞いた話でセネガルの様子はだいたい想像していたけれど、今日実際ビデオでみてみたらちょっと違っていた。僕も外国に行ってみたい。

「百聞は一見にしかず。」

・セネガルはワールドカップにも出場したのを思い出しました。

「男性は老いから若きまでみんな、サッカーやっていました。ボールがない人はぼろ布で作ってまで。有名選手になればファイトマネーにつながるからね、生活かかてる。部活サボっちゃおうかなあ、という日本人とは感覚が違う。」

・ビデオを見る度に思うけれど、ほんとに貧しいなと思いました。

「日本人の『貧しい』という言葉とは違う感覚がある気がする」

・学校に行ける人は4割の人しかいなくて、私達がこうやって学校に行っていることがとても素晴らしく裕福なのだと思います。

「その通りだね。ちょっとでも視野を広げることで、有り難みを感じる。そういう感覚を大事にしましょう。有り難さを感じる機会を一つでも多く持てた方がいいね。」

・井戸も意外と深く水を汲むのに大変じゃないかと思いました。

「自分の家の水道が出なくなったらみんなはどう思う?想像を絶するほど不便だよ(経験者は語る)。」

・セネガルの人は胸筋を鍛えるからスタイルが良いみたいなので、私も鍛えよっかなと思った。

「そんな甘いもんじゃない。セネガルの人は鍛えるの、いやでもやめられないよ。疲れたからやめよう、とはいかないのですよ。」

・馬に水とピーナツの粉を混ぜたものを飲ませる。

「日本の家畜の餌とは違いますね。」

・井戸の水もなくなるくらい水が少ないことがわかった。

・セネガルの学校には掃除の習慣がない。

・学校は掃除しないから体に悪そうだなと思った。

「そういえば毎日の一斉清掃もつらくないね。」

・奴隷の館はビデオを通して見てもすごく不気味でした。1部屋に50人も入れられていたと聞いて驚いた。

「人権とは、人が生きる権利のことです。人権が保障されている時代に生まれて良かったですね。」

・セネガルの人はとても元気で明るくて全然心が貧しくなれないと思った。

・踊りがすごく激しいものだということがわかりました。あっちの方はいつも楽しそうであらやましい。

・私も一度あの音楽に合わせて踊ってみたいと思いました。

「君なら踊れる。何をもって幸せとするのか、もう一度じっくり考えてみて下さい。」

・外国には色んな人の色んな生活があるんだなと思いました。

2 疑問点

・砂漠が多いわりに菓草や果物がとれている所。

「緑地もなかにはあります。」

・どうしてセネガルはこんなにも貧しい国になったのか。

「大航海時代に征服されて土地は占領され、人々は奴隷として売られた。次に第二次世界大戦で敗戦しフランスの領土となった。更に独立後1970年以降、主要輸出品である落花生があまりとれずに赤字になったため。」

・専門家の言葉の中に「セネガルの人は自助努力が欠けているかと思われる」とあったけれど、国を発展させたり生活を変えたりしたいと思っていないのかなと思った。

「とにかく情報が入ってこないからね、テレビ、新聞、雑誌は贅沢品。発展が何を指すかわからない人も多い。」

・なぜ砂漠のあるところに塩の山があるのかなあと思いました。セネガルに学校はないの？

「世界で唯一の湖らしいです。学校はありますが少ないです。しかも問題だらけです。」

・青年海外協力隊の人は仕事、家族をすてて(??)その大変なセネガルに行こうと思うのか。

「ロマンでしょう。あとは、人の役に立ちたいという純粋な気持ち、そして能力があるから抜擢されてしまった、と。」

・だいたい何人くらいの方が通訳としていたのですか？

「延べ人数で10人くらい。でも随時2~4人かな?」

・どんなことがセネガルと日本とで違うのか。

「大きいところでは宗教でしょう。でも授業を通して自分で考えてみよう。みんなもだよ!」

・セネガル人の学校はなんで地理学をやっていないのか。

「やりたくてもやれない。そこまでいかない。学校が少ないし、留年してしまうから。それ以前に学校に行けない子が多いから。日本人にとって地理(社会)を小学校で学ぶのは当然ですが、世界的にみればそうではありません。」

・なんで食べ物とかがないのに人が多いのだろうか。

「えてして、労働力がないから一人でも多く産んで働き手を増やしたい、という思考回路に発展してしまうのだそうです。」

・セネガルの人はなんでみんな髪型が違うんだろう。

「みんなと同じだと安心、っていう日本人とは感覚が違うからじゃない?」

・奴隷の館が何で今も残っているのかと思った。

「世界遺産となっています。過去の過ちを繰り返さないためにも、残す必要はあるのではないですか。」

資料3 10時限 生徒による作文

テーマ「開発途上国や国際協力について考えること」

生徒1

途上国はまだまだたくさんあるが全部先進国になったら世界は一体どうなるのだろうか、今から考えるのがとても楽しみだ。生きている内は無理だろうが。国と国がお互いに協力しあい、がんばったら世界はいいものになる。今もアメリカとイラクの問題などが話題になっているがもう昔じゃないんだから戦争なんかしている場合じゃない。ビンラディンがテロを行ったせいで戦争意識が強まり世界が熱をあげている。そんなものに熱をあげていないで国際協力に熱を注げよ!と怒り心頭だ。北朝鮮の問題もそうだ。拉致なんかしてる場合じゃない。全世界みんな一緒に手をつなぎ協力すべきだと思って止まない。まず世界に平和を、そして楽しい世界にしようじゃないか。政府もつまらないことにお金をかけてないで開発途上国に援助するべきだ。小泉さんはその辺をどう考えているのか。今こうしている間に

も途上国では早く援助を待っているのに何もできないなんて。色々書いたが、とにかく各国協力し合って援助したり助け合って生きていければいいと思う。

生徒2

なぜ、途上国への援助が必要なのかというと、世界の輪を広げてほしいからです。日本などの発展している国もたくさんあるけど、開発途上国だってあるわけなので、例えば、日本はこんな所だよ、と教えてあげたり、様々な技術者を派遣したりしていけば、少しずつ発展していくのではとおもいます。世界が協力していけば必ず世界は広がるのでそのためにもボランティアや援助は必要になってきます。

それから、教育が発展していない国の人は勉強が出来ないから優秀な人材も少ないのであって、きちんと勉強できる環境になれば、伸びる人もたくさんいると思います。環境は本当に大切だと思うし、そんな環境にするために人材も必要になってく

るので、ボランティア派遣によって変わってくるというわけです。開発途上国は伸びる部分がたくさんあると思っているので援助などをどんどん行ってほしいと思います。そして、いつか、どの国も素晴らしい国になることを願っています。

生徒3

感じたことはたくさんありますが、一度この目で開発途上国を見たいと思いました。めずらしいからとかではなく、同じ人間の立場で、その現場を重く受け止め、それから真剣に自分には何か出来るのか、しなければならぬことはないのか、考えなくてはならないことはたくさんあると思います。だから、今の段階で、資料を見てかわいそうだと思うから援助した方がいいとか、そういう考えは持ちたくないし、真剣に今の世界を見ていないのじゃないかと思う。そう言いつつ自分もあまり開発途上国に興味を示さなかったのも事実です。テレビや新聞で世界の動きを見るときも、アメリカやヨーロッパ、最近では北朝鮮、イラクなどにしか興味を向けずそんな自分が情けないと思ったのが、セネガルの資料を見たときでした。新聞で見ても余り詳しいことまで書いてなくて、他の記事に比べたらほとんど興味を持ちませんでした。

今回のことがきっかけで、そう言う国への援助は必要なのかということを考えることが増えました。我が日本は、大量の負債を抱えています。まだまだ開発途上国に比べたらいい生活をしています。やはり人間皆平等であるために援助は必要です。そのために、争うことのない国際情勢でなければならぬのでしょうか。

授業を通してわかったこと、感じたこと

生徒1

僕たちのような恵まれた国ではレオナ村の人達とは反対で、

あれが欲しいやあれがなければ幸せになれない、など多くのものを望みすぎていると思った。僕たちにとって当たり前のことでも貧しい国々の人にとってみれば、それは生きていくための「幸せ」なんだなあと思った。

生徒2

日本では中学校まで義務教育だからたとえテストで0点かとてもいっぱい休んでも卒業はできます。でもセネガルの人達は慣れないフランス語で勉強しなきゃいけないしとても大変そうだと思います。昔の人が様々な努力をしてくれたから今はちゃんとした教育が受けることができることに、感謝しないといけないと思いました。

生徒3

僕は小学校の時生徒数が少ないという理由で、三年生の時四年生でやる授業を、四年生の時三年生でやる授業を、五年生の時も六年生の時も同じ形で授業を受けてきました。これは、やった人にしかわからないつらさがありました。授業のレベルが混ざり、なにがなんだか、その当時わからないほどでした。こんな、つらい思いがないように、セネガルでは早く教員ももっと増えて、二部形式や複式学級が無くなればいいと思いました。

生徒4

レオナ村の人々は自分の家族、周りの人全てをくめて村自体を誇りに思っていると感じた。そしてせいたくは言わず、平和であってこればいい、この日本でそういう風に考えている人が一体どれくらいいるだろうか。日本人もこういう考えをみんなもてれば、犯罪が無くなり、貧しくなったとしても、平和で明るい今の世の中とは全く違う理想郷ができると思う。

参加した研修の振り返り

今まで様々な機会があり海外に行くことが多く、色々な子どもに出会いました。特に、両腕のない女の子に物乞いされたり、深夜1時過ぎに母親と二人で風船を売っている少女を見た時に強い疑問を抱きました。日本でそのような議論を交わしている時に「資本主義だから仕方ないんだよ」と人に言われました。その時はその言葉に納得しましたが諦めたくないという思いはあります。自分の力は大河の中の一滴にすぎないとは思いますが、現状を深く知り見つけ、何ができるのか見極め、行動に移したいとの気持ちから応募しました。

国際理解教育への取り組みは、国語という教科の特性を生かし授業の随所にちりばめることができます。例えば人権を扱った評論では、私が出会った世界の国々の子どもの写真とエピソードから入り「このクラスみんなに生きる権利があるようにこの子たちが生きる権利もある」と伝え、次の段階の作文はより深みのある内容になります。今回の海外研修の体験を通して体系付けた国際理解教育を行っていきたいです。

発展途上国と私達のつながり

—私にも何かできることがある—

榎本 桂子 外国語
ENOMOTO KEIKO

大阪府立北淀高等学校

- 実践教科 …………… 外国語(英語)・総合的な学習の時間
- 時間数 …………… 3時間
- 対象生徒・学年 …………… 1年生 2クラス
- 対象人数 …………… 約70名

カリキュラム

実践の目的

1. 本校の概要

私が現在勤務する北淀高校は、高校教育に向けての十分な基礎学力を持たず、勉強に対する劣等感や自己への否定的な感情も強い生徒が層として在籍する学校である。また、経済的、家庭的に過酷な現実と背景をかかえた生徒も多く、長期欠席、途中退学となる生徒も少なくない。そのような生徒達の現状を踏まえ、彼等が少しでも参加感、達成感を持てる授業や体験学習を展開することで、自分に自信を持ち、社会参加の意欲と関心を高めることができるようにと様々な取り組みをしてきた。その取り組みの1つに2年前から始めた「国際理解教育」があり、本年度1年生より「総合的な学習の時間」のプログラムの中に組み入れている。

2. 実践の背景

「国際理解教育」では、JICA研修生との交流会や、青年海外協力隊経験者による講演会、ワークショップなどを

実施した。またそれと時期を同じくして、現代社会の授業では発展途上国の問題を学習し、英語の授業でも海外ボランティアや世界の将来の問題をテーマとした教材で学習するなど、「国際理解教育」及び各教科の学習効果を相互的に高めることをねらいとした実践を行った。

3. 実践の目的

上記の学習背景に基づき、今回の実践から途上国のひとつの現状を知ることで、「国際理解教育」の事前学習となることを目的とした。また、英語の教材に登場する、バングラデシュで海外ボランティアとして働く人物を単に抽象的なものとして終わらせないための学習としたい。また、経済的な困難をかかえながら登校している生徒も少なくない中で、途上国がかかえる貧困の問題を客観的に学習することで、自分の問題にも新たな視点を見出ししてほしい。「国際理解学習」全体を通して途上国での様々な困難と自分の生活はつながりがあり、それぞれの存在が価値あるものだと理解し、彼等の日々の関心事が自分の周囲のごく限られた範囲に留まることなく、広い視点で社会を見つめる姿勢を身につけることを目的とする。

授業の構成

時限・テーマ(約15分)	内容	資料
1時限 バングラデシュを知る① バングラデシュを紹介し、発展途上国への関心を高める。	(1) プリント「バングラデシュってどんな国？」で、クイズ形式でバングラデシュについて知ってもらおう。 (2) 写真、ビデオを見せながら説明する。	・作成プリント (資料1) ・世界地図 ・現地で収集した物品 ・写真、ビデオ (資料2)
2時限 バングラデシュを知る② バングラデシュと日本との価格等の違いを知り、途上国の貧困の問題に気付く。	(1) 前回のプリントを続いて使用し、主に物の価格の違い、先進国との経済状況の違いに気付く。 (2) 前回、今回の内容について感想を書く。	・作成プリント (資料1) ・現地で購入した物品など

3時間

途上国と私達とのつながり
途上国の貧困について考え、私達の生活との関連を知る。

- (1) 作成プリント「貧困の環」を使用し、貧困の構造と、その解決方法について考える。
(2) 作成プリントで紅茶の流通構造を知ること、自分達の生活と途上国の貧困の関連を知る。
- 作成プリント (資料3)

授業の詳細

1時間 バングラデシュを知る①

1. 生徒に作成プリント「バングラデシュってどんな国？Part1」(資料1)を配付し、プリント前半のクイズを考えさせる。
2. クイズの正解を与えながらバングラデシュについて説明し、どんな国なのかについてイメージをふくらませる。
3. 前半が終わったところでクイズは一旦中断し、写真(資料2)とビデオを見せながらさらに街や村、学校や子供達の様子を説明する。

2時間 バングラデシュを知る②

1. プリント(資料1)を生徒に返却し、プリントの後半について説明しながら生徒は答えを考える。現地で購入した物品を見せ、生徒が値段を考える中で、日本とバングラデシュの物価の違い、経済状況の違いなどを知る。
2. 最後まで答えを推測させた後正解を与える。生徒は各自の正解率を書き、それについて教師はA、B、Cの評価を与える。
3. 1、2時間でいった内容について所感を話した後、生徒は感想を書く。

〈生徒の感想から〉

- *お金を持っている人と持っていない人の差が大きくて、電気がない学校を見て、大変そうに思った。
- *ものすごくやせ細った子供とか、街の様子がごちゃごちゃしてて、すごい環境だと思った。
- *学校が午前と午後の2部制であることや、1クラス60人というのにびっくりした。
- *日本に住んでいたら考えられないような暮らしやなあと思った。
- *すごく貧しい国なんだなあと思いました。物の値段が安いのにびっくりしました。でもそこの人たちにとっては

大金だということもわかりました。

- *子供が笑顔やった。街が洪水でびっくりした。
- *貧しい暮らしをしているのに村の人はすごく元気だなあと思いました。
- *こういう環境の中で子供がすごく生き生きしていたと思う。
- *赤ちゃんを産むのがすごく早いと思う。
- *衛生状態がスゴイと思った。13歳で赤ちゃん産むとか信じられへん。でもみんなにここにこしてて、街の子供もスゴイ元気でイイ子達って感じた。
- *学校に電気がないとか、机や椅子もないのにびっくりした。
- *半数以上の人々が字が読めないのにびっくりした。
- *貧しい所とそうでない所の貧富の差が本当に激しいと思った。

3時間 途上国と私達とのつながり

1. 前回の授業内容についての生徒の感想をいくつか紹介し、バングラデシュの貧しさについての感想が多かったことについて述べた後、作成プリント「バングラデシュってどんな国？Part2」(資料3)を配付し、生徒はプリントの指示に従って『貧困の環』について考える。
2. 循環の様子を説明しながら、途上国の貧困は個人の問題ではなく、構造的に起こっていることを生徒は理解する。次に、『貧困の環』を断ち切る方法について考える。これにかかわるNGOについても少し説明し、自分とのつながりを認識する。
3. 作成プリントを用いて、発展途上国と自分の生活とのつながりを考える。文章は『魂にふれるアジア』(松井やより著 朝日新聞社発行)の「紅茶哀話」より抜粋したものであるが、これを一緒に読んで、バングラデシュに限らず、発展途上国と私達の生活との関連性に気付き、構造的に起こっている途上国の貧困の解決のために私達が積極的に関われる可能性のあることを考える。今回の授業全般について生徒は感想を書く。



<生徒の感想から>

- *スリランカの紅茶農場のひどさは信じられないぐらいひどいと思った。バングラデシュは私が想像していたのよりすごい国やし、いろいろ知ることができてよかった。いつか、バングラデシュのような途上国を助けられるような仕事をしたい。興味がすごく持てた。
- *こんなに苦しい思いをしている人達がいるとは思わなかった。豊かな国(日本も)がもっと援助したらいいと思う。
- *世界にはバングラデシュのような貧しい国がたくさんある。そういう国々を世界各国が救うことをどんどんやってほしい。国連にも何か手段はあるはず。
- *ほんまに日本はバングラデシュのような国に比べて豊かな国だと思った。日本の人々は途上国にもっといろんなものを贈ったらいいんじゃないかなあと思った。
- *途上国の人の暮らしは大変そうだった。若いのにき

つい仕事をしなければいけないなんて、日本に住んでいると考えられないことだと思った。途上国の人たちのために何かしてあげたいなあと思いました。

- *本当に生活に困っている人たちがいることを改めて実感しました。だから今は自分にできることをすすんでしようと思いました。
- *紅茶一杯にしてもすごく手間をかけてしんどい思いをして作っていたということについて、すごく心に残った。いつかすべての人が裕福に暮らせるようになればいいと思った。そのためには、ひとりひとりがこのことについて考えなければならぬと思った。
- *バングラデシュのことを学んで、一言では言えない状況で少しびっくりしたけど、その中で一生懸命生きるために働いていることがすごいなあと思いました。自分がその立場だったらどうするんだろう…と考えました。

成果と課題

本校の概要にも述べた通り、学習に対する意欲、関心が低い生徒が多い中で、今回の授業にいったいどれだけの関心を示し、どんな反応を見せてくれるのかと不安な気持ちで準備をすすめた。開発教育についての実践経験や知識もなく、どんな内容にするか決めるのに苦労したが、生徒の理解度も考慮してわかりやすい

教材を基本に考えた。実際授業をして予想以上の反応があった。生徒はクイズや写真・ビデオの映像に関心を示し、普段の英語の授業ではほとんど何もしない生徒が真面目に感想を書いたり、「先生、あの授業の続きはいつするの?」と問いかけてくる生徒もいるなど、今までにない面を見ることができて嬉しい思いだった。(勿論、『嫌いな』英語の授業よりましとい

資料1 1~2時限で使用したプリント

バングラデシュってどんな国?		あなたの正解率は? /25	
Q1	バングラデシュに一番近い国は? ()	Q18	リキシャに1回乗ったらいくらかかる? およそ()円
	インド トルコ ブラジル エジプト		10 50 100 200
Q2	国の面積は114万4000平方kmで、日本のおよそ()の広さです	Q19	この箱はいくら? ()円
	3倍 1/3 1/5 2/3		8 50 150 300
Q3	人口は()人で、日本とほぼ同じくらいです	※おみやげやで買ったのでこの値段。普通はもっと安いはず	
	5000万 1億3000万 2億7000万	Q20	このTシャツは? ()円
Q4	1年の平均気温は? ()℃		50 100 300 1,000
	21 27 35	Q21	電話の普及率は? ()%
Q5	1年の平均湿度は? ()%		0.5 10 36 80
	25 50 77	Q22	高校の先生の月給はいくら? 約()円
※夏の最高気温は大阪以上です			3000 10,000 50,000
Q6	バングラデシュの主食は?	Q23	1日の所得が1ドル(120円)以下の人が人口の()%
	コメ ジャガイモ トウモロコシ		20 30 40 50
Q7	食事の食べ方は? ()を使って食べる	Q24	この店がよく知られた産物は? ()
	お箸 ナイフとフォーク 手(指)		カシミア ジュート 綿花
Q8	国ができてからのくらい? ()年	※これから、ロープ、ドンゴロス、カーベットの裏地などを作る	
	30年 400年 1200年	Q25	日本への輸出の中で3割以上を占めるものは? ()
Q9	平均寿命は? 男()歳 女()歳		エビ カズノコ マグロ イカ
	43 61 75 83	※日本の平均寿命は男80歳、女83歳	
Q10	5歳未満の子供の死亡率は? ()人	25~20% A 18~10% B 8~0% C	
	8/1000 34/1000 98/1000	※日本は4/1000人	
Q11	非識字率は? 男()% 女()%	◇今日の授業で見た写真やビデオから、バングラデシュについてどんな印象を持ちましたか。	
	25 49 66 71	◇どんなことが日本と違っていると感じましたか。	
※日本は識字率100%		1年()結()番 名前()	
Q12	高校就学者数/学齢人口は? 全体()% 女子()%		
	12 18 35 40		
Q13	公立小学校の1クラスの人数は? ()人		
	25 40 50 60		
Q14	学校は午前、午後の2部制です。なぜ? ()		
	暑くて中は勉強できないから / 学校が足りないから		
Q15	休日は何曜日? ()曜日		
	月 金 土 日		
※イスラム教徒が多いので、その習慣に従っています			
Q16	英語は何年生から勉強する? ()年生から		
	小学1 小学5 中学1 中学2		
Q17	小学校の授業で行われていないものは?		
	国語 体育 美術 音楽		

う気持ちもあるのだろうが…) また、感想を見ても、「途上国の生活は大変なんだ。」にとどまらず、「大変そうだけど、元気で生き生きと見えた。」というような、それぞれの存在を肯定的に見る姿勢や、「この問題についてひとりひとりが考えていかなければならない。」「本当に困っている人のために自分ができることはすすんでしたい。」といった前向きで積極的な態度を見ることができ、途上国と自分とのつながりに気付いてくれた生徒がいることに大変満足している。

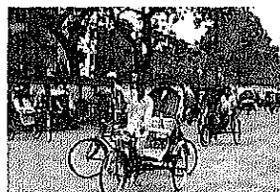
授業計画については、まだまだ改善すべき点はたくさんあった。1、2限の内容は最初の計画は1回の授業で実施する予定であったが、時間配分がうまくいか

ず2回に渡って行ったので、写真・ビデオなどを見る時間と感想を書く時間が離れてしまい、十分な感想がきけなかった。また、資料2の教材については、本来はグループ形式の学習で意見交換をしながら貧困の問題や解決策について考えるべきものであると思うが、時間的な制約や生徒のグループ活動の能力などを考えて個人学習にしたが、授業への参加感や理解度は充分でなかったように思う。

今回の実践経験をもとに今後も開発教育を研究し実施していきたい。今回「自分にできることがあれば何かしたい。」と考えた生徒にどのような指針を示していけるのかがまず自分に課された課題だと思う。「総

資料2 1時限で使用した写真

街



街の主角「リキシャ」



雑踏の街



トラックで移動する人々



バザール（市場）にて

学校



小学校のテスト風景



教員訓練校付属小学校



サッカーボールを追う子供達



NGOによる学校

子どもたち



水を運ぶ少年



ストリートチルドレン



体育学校の生徒



おばあさんと子ども

村



水田を耕す子供達



雨期の畑での労働



村長の家にて



雨期の村の交通手段

「総合的な学習の時間」での「国際理解教育」は来年度も予定しているが、今回のJICA研修生との交流会や青年海外協力隊経験者の講演、ワークショップ等で得たものをさらに発展させていく中で、自分の実践がいかに関わられるかを考えていきたい。開発教育を通して、生徒達が『世界の様々な生活や、また時には困難な生活は自分の生活に通じている』ことを気付き、自らのあり方や生活を振り返る機会としたい。また、途上国で国際協力に関わっている方々の生き方を学ぶこと

で、新たな世界に目を向け、自分の将来の指針のひとつとしてほしい。これらの教育を通してひとりでも多くの生徒が自らの可能性に気付き、自己開発の手がかりをつかんでくれることを期待している。



資料3 3時限で使用したプリント

バングラデシュってどんな国? Part2

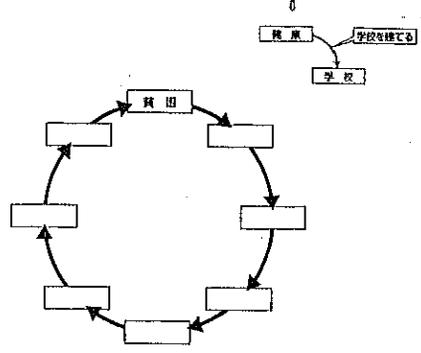
『貧困の境』とは・・・?

バングラデシュの写真やビデオを見て、どんなことを感じましたか? 「大変そうだな」「貧富の差が激しい」「ものが足りなくて苦労してそう」「貧しい暮らしをしているのに元気そうだなと思った」など、いろんな感想がありました。でも共通して感じたことには、「日本は豊かだな」ということではないでしょうか。

『貧困』は何故解決できないのでしょうか? 一生懸命に働かないからでしょうか?

① 右の8枚の『貧困カード』を、下の『貧困の境』の中に入れてみましょう。『貧困』を一番上に入れて下さい。あとのカードはどんな順に置理していますか?

② この環のつながりを断ち切るためにはどうすればいいのでしょうか? 断ち切る場所とその方法を、最低1つ書き入れて下さい。(例えばこんな風に)



1年()組()番 名前()

貧困: 世界の子供の約25%が、貧困(1日の収入が1ドル以下)の中で暮らしている。

学校: 病気になりやすい子供達は、勉強についていけなくなり、学校を休みがちになる。または、学校に行かない。

飢え: 貧困の中で暮らす子供達は、充分な量の食べ物がなかったり、栄養が欠けていたりすることが多い。

職業技術: 学校の欠席が多かった、学校に行けなかった、という子供達は、読み・書き・計算などの、仕事に必要な技術が身につけていないことが多い。

栄養失調: 充分な食べ物がない子供達は、そのうち栄養失調になって、預言、成長ができなくなる。

失業: 子供達は成長すると、仕事を探す。しかし、学校で基本的な技術を学んでいないと、仕事は見つかりにくい。充分な給料を得られないこともある。

健康: 栄養失調の子供達は、身体があまり強くなく抵抗力が弱くて、伝染病にかかりやすい。

不十分な収入: 安定した仕事がない人は、衣食住に必要な収入を得ることができない。その中でうまれる子供は、生まれながらに貧困に苦しむことになる。

参加動機と私のプロフィール

私は本校に赴任して2年目ですが、本校には経済的、家庭的に苦しい状況を抱えながら通学する生徒も多く、学習指導、生活指導面で多くの問題があります。そんな中で、2年前より始めたJICAとの連携による国際理解教育の実践は素晴らしいもので、学校全体の理解や支援もあります。発展途上国における様々な問題は、国際理解教育の中での重要な課題であり、生徒達がそれを自分の問題としてとらえ、その解決のために自らが参加するという意識を育てることは大切なことです。残念ながら私はこれまで発展途上国への訪問の機会を殆ど持つことができませんでした。そこで今回この研修に参加し、その経験を様々な形で生徒達に還元し、本校での教育をより有意義なものにしていきたいと考えています。私の担当科目は英語で、これまでも教材選びに際しては異文化理解、国際理解に通ずるものをと心がけてきました。教材の内容把握にとどまらず、世界の様々な文化の背景や生活、価値観などを理解できるように務めてきました。教材の内容把握にとどまらず、世界の様々な文化の背景や生活、価値観などを理解できるように務めてきました。英語という一つの教科だけで大きな成果を期待することは難しいことも痛感しています。開発教育に関してはこれまでほとんど実践経験がありませんが、今後研修を重ね、「総合的な学習の時間」や教科の学習の中で活用していきたいと思えます。

国際協力の舞台 ～バングラデシュの場合～

吉川 健治 保健体育
YOSHIKAWA KENJI

奈良県立五條高等学校

- 実践教科 ……………保健体育(保健)
- 時間数 ……………4時間
- 対象生徒・学年 ……………2年生(普通科)
- 対象人数 ……………36名

カリキュラム

実践の目的

国際化の時代と叫ばれながら、若者の多くの意識は、目の前の受験や日々の部活動、友人関係などに向けられ、国際協力の重要性はおろか国際社会への関心さえ希薄だという現実がある。本校生徒も例外ではない。

保健の領域の中には「地球環境の保全」「食料輸入」「感染症・検疫」などの国際間の諸問題も取り上げられているが、今回の授業を通して、それらに対する興味関心を呼び起こすとともに、あわせて開発途上国支援の重要性を現実の問題として認識することを目的とした。

授業の構成

時間・テーマ・ねらい		活用教材
1時間 「開発途上国の姿を感じよう」	7国(班)に分かれ、貿易ゲームを行う。ゲームの中に、協力隊員を登場させ、協力の重要性なども盛り込んだ。	・貿易ゲーム*キット (資料1)
2時間 「国際協力に関心を持とう」	ゲームの振り返りと解説 国際社会は先進国、開発途上国があり、お互いに助け合いながら生きていかなければならないということに気づく。	・貿易ゲームの結果
3時間 「バングラデシュってどんな国?」	開発途上国の一つであるバングラデシュの概要を自分たちで調べ、発表する。 現地の写真をパワーポイントによるプレゼンテーション。生活ぶり、ストリートチルドレンなどの問題などを提起する。	・バングラデシュ 7テーマ別発表用紙 (生徒作成模造紙) ・JICA資料 ・現地写真21枚 (資料2)
4時間 「バングラデシュと国際協力の現場を見てみよう」	7国(班)テーマ別ビデオ視聴「私たちの考えつく協力は?」 ビデオ視聴後話し合いをし発表する。 4時間受講後の国際協力意識の変化を問うアンケートを課題とする。記名提出。	・自主制作ビデオ(30分) ・アンケート用紙(資料3) ・日本ODA実績プリント (資料4)

※「貿易ゲーム」…巻末の開発教育教材リストを参照

授業の詳細

1時間 「開発途上国の姿を感じよう」

1. 「貿易ゲーム」実施(実施の方法と結果は資料1)

従来の貿易ゲームに、協力隊員を登場させ、要請のあった国には3分間、作業員の肩にふれることにより、できた製品は多少不良であってもマーケットに受け取

ってもらえる設定にした。

終了後、各国の封筒の中身と終了後の持ち金を表にして黒板に書き、感想を整理する。

【生徒の反応】

ほとんど情報を与えず、始めてみると、封筒の中身に愕然としたり、やる気が失せてしまったり、様々な反応を示したが、国同士のやりとりが発生すると、雰

困りも盛り上がり富を蓄えることに没頭した。ODA、JICAを登場させるとにわかに歓声が上がリ、一段の盛り上がりを見せた。途上国の一つの班は、蚊帳の外状態になりJICAを活用する意欲もなかった。これも途上国の苦悩として大いにあとの展開に役立った。

2時間 「国際協力に関心を持とう」

1. 振り返りと発表

- ・各国（班）で結果やゲーム中の出来事を振り返り、代表者が発表する。
- ・各国（班）発表の要点。
- ・開発途上国の苦悩。（先進国はけちだ、ODAにもっと協力してもらいたい、技術がない、お金がない、何もできない、おもしろくない等）
- ・先進国のお金にかける情熱。
- ・国同士助け合わないといけない。
- ・誰かの力になれることは素晴らしいことだと思ったというODAの意見もあった。

2. 解説

- ・紙は資源、定規などは工業技術。先進国、新興国、途上国には差があり、この不平等さが現実でもある。途上国の苦悩も又現実である。
- ・国が単独でやっていこうとしても、どこの国もたちまち困ってしまう。（お金や技術はあっても資源がない、資源があっても、製品にならない。）国と国の関わりがない限り、どちらも倒れてしまう。国と国との密接な関係を認識する。
- ・「途上国はかわいそうだ、不幸だ。」と言う意見について「お金がない、ものがない」＝「不幸だ、かわいそうだ。」ということは正しいだろうか。答えのない問いだが考える。
- ・公正な国と国の関わり、貿易とは……考えてみよう。
- ・日本の援助のODAやJICAの存在をアピールする。

3. 解説を聞いての話し合い

【生徒の反応】

- ・発表の際は、生き生きとゲーム中の言動を紹介したり、他国（班）の批判をしてみたり、反省をしてみたり、活発なやりとりで盛り上がった。解説を聞いて、すくなくならずその不平等さに驚いたようである。

特筆すべきは、生徒がリアルに国と国との関係を感じ取っている事である。振り返る中で開発途上国への支援の必要性や、開発途上国自体への興味や関心もわいてきたようである。

4. 開発途上国の一つ、バングラデシュについて調べてみよう

- ・次回までに各国（班）ごとにバングラデシュの課題を簡単に模造紙にまとめることにした。

バングラデシュ調べ 各国（班）課題

- ①（喜多国）地図
- ②（八木国）自然、地理、産業
- ③（桜井国）イスラム教、ヒンズー教
- ④（ODA世界マーケット）ODA、JICA、JOCVIについて
- ⑤（前川国）面積・人口・平均余命など
- ⑥（山口国）男女の服装（絵で表示）
- ⑦（山田国）歴史

3時間 「バングラデシュってどんな国？」

（授業風景と発表模造紙写真①～④）

1. 前時の復習

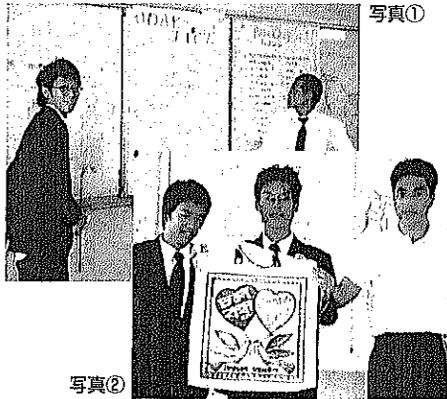
- ・貿易ゲームで感じたこと……国と国との不平等さ、開発途上国の苦悩
- ・国と国は助け合わなければならない。

2. バングラデシュについて調べた結果を各国（班）ごとに発表そして補足説明

- ・各国（班）で調べてきた事を模造紙に書き、それをもとに全体にプレゼンテーションする。質問を受けたり、自分が説明をして補った。

3. パワーポイントによるスライドショー現地写真 21枚紹介（資料2、一部抜粋）

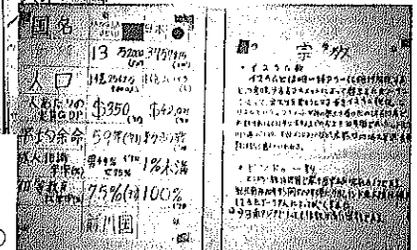
ベンガル人の風俗や生活、仕事などから入り、産婦人科の写真を通して、ベンガル社会の女性問題や教育における就学率、学校不足、ストリートチルドレンなどの諸問題など、開発途上国の厳しい現実に触れていく。青年海外協力隊の現地での様子も知り、国際協力、



写真②



写真③



写真④

貢献の必要性を十分に感じとったようである。

4. 今日の授業の感想を書く

【生徒の反応】感想文から

- ・日本では考えられないようなことがあることに驚いた。自分の考えの甘さに少し気づいた。国々でいろんな問題をかかえているんだなと思った。(男子)
- ・今日の授業で少し他の国のことに興味が湧きました。もし大きくなって、何か教えられることができるようになったら、1回行ってみたいです。(女子)
- ・バングラデシュはとても貧しい国だと思った。日本とは宗教や生活などが全く違いました。ODAやJICAの援助などを受けて将来は日本みたいな大きな国になったらいいと思います。(男子)

4時間 「バングラデシュと国際協力の現場をみてみよう」(授業風景写真⑤⑥)

1. 今時の目標

- ・ビデオ映像をとおして、バングラデシュの人々の表情、生活感を感じ、協力を考えよう。

2. テーマ別「平成14年度高校教師海外研修バングラデシュ」ビデオ視聴30分

- ・「僕らが考えつく協力は何？」という観点で見よう。

ビデオ内容 (30分)

ストリートチルドレン、リキシャ、バザール、大河とスコール、水をくむ少年、初等教育の公立学校、NGOの運営す

る学校、産婦人科病院、稲作、教員訓練施設と付属の学校、地方都市マイメインの街、ダッカ体育大学、雨期の農村、ジャムナ橋、オールドダッカ、ダッカのバス

3. テーマ別で各国(班)で話し合い、そして発表

※テーマと話し合った結果

(喜多国) 子ども達

一子どもが畑で仕事をしていたのすごいいいと思った。服を送ってあげたい。

(前川国) 学校・教育

一日本の指導者をたくさん派遣したらよいと思った。

(八木国) 都市環境

一建物をきれいにしてあげたい。道路をよくする。

(山口国) 道路・バス

一道路の整備、新しく大きなバスが必要だと思った。

(桜井国) 水・洪水

一ダムが必要だと思った。水をきれいにする機械があればいいと思った。

(山田国) 農村

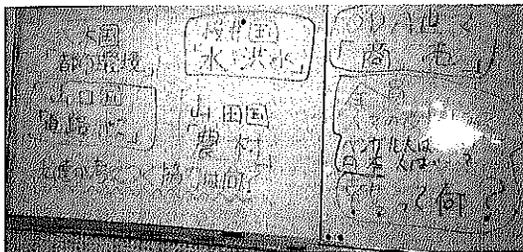
一ジュートと稲ぐらいしかなかった。農業の仕方をうまく教えてあげたい。

(ODA) 商売

一今の日本と違い、コンビニやスーパーはなく、人と人がふれあい、そして笑顔を見せ合う、そんな生き生きした商売だった。衛生的な面で援助してあげた方がいい。

(全員) 人々の表情

一ビデオで見た限りでは、ベンガル人は幸福に見えた。楽しそうで、生活の苦しさは顔には出ていなかったけど、身体はすごく細かった。子どもたちは無邪気



写真⑤



写真⑥

で、学校に通っている姿は真剣で一生懸命だった。大人たちも陽気だが、どこか不安そうな感じがした。日本人はなんか理屈くさく思える。恵まれているはずなのに不満ばかり言ってる気がする。毎日一生懸命生きていることが大切だと思う。

4. 4時限の授業を終えて最終アンケート(資料3)と参考のための「 Bangladeshにおける日本のODA実績プリント(資料4)」配付

4時限のまとめ

貿易ゲームでは国と国の不平等さやJOCVのありがたさを身をもって体験し、開発途上国への興味を触発した。次への展開として、生徒自身による調べ学習を取り入れ、Bangladeshをより身近な物にするように努めた。さらに写真によって、イメージをふくらませ、徐々に深刻な問題に触れていった。最後にビデオ視聴でより現実味を帯びたBangladeshの明るい面、深刻な厳しい面を知り、自分ならどんな協力をしたかという観点を設定することで、より深く自分のものとしてとらえることができたようである。

また途上国支援の重要性は別として、Bangladeshの人々の暮らしぶりや表情と、我々裕福な日本人は彼らと比べて幸福なんだろうか。「幸福とは何だろうか」という問いかけもしてみた。援助は必要だが、幸福とは一生

懸命生きることではないかという感想が印象的だった。

本来はもっと時間をかけて、じっくり取り組みたい実践であった。

成果と課題

授業実践を通しての所感・反省点・今後の課題

取り組みを始める前は、初等教育の重要性やら、途上国社会の女性問題、都市と農村の問題、環境・衛生問題など焦点を当てるべく課題はたくさんあり、現地を視察した新鮮な驚きにあれもこれもと生徒に伝えたい事ばかりが多すぎて悩んでいた。

もう少し冷静に考えると興味も今ひとつの生徒たちに、本当に関心を持ってもらうためには知識の受け売りや、見てきたことを単にことばで伝えるのではなく、「ありのままに」感じてもらうことが一番まっすぐに心に届くのではないかと思った。そのため、訪問国の詳細なデータなどは用いず、ゲームや視聴覚教材など五感にうったえた展開を中心にすすめることにした。功を奏して、限られた四時間という短い時間ではあったが、生徒たちは驚くほど集中し、その気づきも予想以上に大きいものがあった。アンケートの結果が示すとおり、多くの生徒が途上国に目を向け、国際協力に関心を持ってくれた事は本当に驚きであるし、うれしい限りである。

今後の課題としては、生徒自ら考える活動を多くしたり、これから自分がどう国際協力に関われるのかといった具体的なものに踏み込むことであると思う。しかしそれには次のような課題もある。

今回、保健の授業を3時間、他教科の先生の授業を1時間いただいて時間を捻出したものだが、開発教育なり、国際理解教育なり総合的な学習の時間も含めた、学校として取り組める確固としたものを構築していく必要を当然のこととして感じている。

ともあれ、朝から夜遅くまで、ダッカの街を動きまわり、JICAのスタッフやNGO関係者にお話を伺ったり、はたまた街角にいるストリートチルドレンにお金をせがまれながらの研修は私の血となり肉となって、生徒たちの心の中に入り込んで行ったことに誇りを持ちたいと思う。このような貴重な機会を与えてくださった多くの人たちに感謝を申し上げたい。

資料1 1～2時限 貿易ゲーム

1. 前日指導

- (1) 班のメンバー決め (各班5名。リーダーの名前を国名とする)、世界マーケット・ODA班と事前打ち合わせ
- (2) 用具準備 (コンパス等、世界マーケット用製品型紙、ストップウォッチ、ゲームの方法プリント)

2. 貿易ゲームの方法

◎基本事項

- (1) グループは一つの国です。一つの班は国ではなく、ODAと世界マーケットです。
- (2) 大統領を決めて下さい。その人には必ず何でも最終的に伺いを立ててください。

◎ゲームの主要な決まり事

- (1) 製品は下の見本です。ハサミで正確に切り取った物しか売れません。
- (2) お金は大クリップが\$1000、小クリップが\$100です。
- (3) 封筒の中には製品を作るための物とお金が入っています。
- (4) ゲームを楽しくするためには不正な行為をしてはいけません。
(だます、盗る、封筒の中身の物以外を使う等はしてはいけません。)
- (5) ゲーム中には何かが起こります。注意しておきましょう。

3. 製品見本

- ・直径9cmの円 \$1000
- ・1辺9cmの正三角形 \$500
- ・縦8cm横13cmの長方形 \$300
- ・1辺7cmの正方形 \$100

進行と結果

	山口国 先進国	前川国 先進国	山田国 新興国	八木国 新興国	桜井国 途上国	喜多国 途上国	ODA 世界M
ハサミ	3	2	1	0	0	0	1
定規	2	2	1	1	0	0	2
コンパス	1	1	1	0	0	0	1
分度器	1	1	1	1	0	0	1
鉛筆	2	2	1	0	1	1	0
B5用紙	4	2	8	12	16	4	0
お金\$	6000	5500	3400	2400	1500	800	
ゲーム後\$	15900	10700	10900	6400	1700	2800	

4. 進行中の世界マーケットとODA

世界マーケット

- ・製品は、ハサミで切り取った正確な物のみ受け取る。
- ・どこにいくら払ったかチェックする。
- ・情報発信…過剰な製品は値を下げるなどを行う。
- ・JOCVのサインのある製品はなるべく受け取る。

ODA・JICA・JOCV

- ・開始10分後 ハサミ、分度器、定規貸し出し 5分間無料
- ・開始15分後 コンパス 5分間\$200
- ・開始20分後 協力隊員(2名) 仕事の手伝い3分間2回のみ
※できた製品にはJOCVのサインをする。

資料2 3時間で使用したスライドショー写真(一部抜粋)

- ①首都ダッカ
②ヒンズー教寺院
③ベンガル人男性
④⑤街の商売
⑥庶民の足 リキシャ
⑦ジュート
⑧食 カレー、魚
⑨たんぼ
- ⑩雨期の川と水の村
⑪産婦人科と看護婦養成
⑫⑬⑭公立の小学生
⑮教室の壁に…Don't begの絵
⑯私立高校の生徒
⑰学校に行けなかった子…NGOの経営する学校
- ⑱市場であったストリートチルドレン
⑲船着き場で寝ている人
⑳青年海外協力隊…ダッカ体育大学 興山 東隊員
㉑日本のODA有償資金協力によってできたジャムナ橋



資料3 4時限 最終アンケート結果

※4時間の授業を終えて、次の15項目に数字で答えて下さい。回答数35

質問項目	1. 強く思う 2. 思う 3. どちらともいえない 4. 思わない 5. 全然思わない				
	1	2	3	4	5
① 今まで私は、国際社会に興味がなかった。	20%	14.3%	42.8%	14.3%	8.6%
② 国際社会は不平等のような気がする。	48.6%	28.5%	14.3%	8.6%	0%
③ 国と国は協力をしなければならない。	60%	34.2%	2.9%	0%	2.9%
④ 開発途上国に関心を持つようになった。	25.7%	37.1%	28.6%	8.6%	0%
⑤ 途上国支援の必要性が感じられるようになった。	40%	48.6%	11.4%	0%	0%
⑥ 恵まれている自分ありがたい。	45.7%	34.3%	17.1%	2.9%	0%
⑦ ODAやJICAのことがよくわかった。	11.4%	42.9%	25.7%	14.3%	5.7%
⑧ 国際協力についてもっと知りたい。	14.3%	40%	20%	25.7%	0%
⑨ バングラデシュのことをもっと知りたい。	11.3%	22.9%	40%	22.9%	2.9%
⑩ バングラデシュに行ってみたい。	5.7%	8.6%	37.1%	34.3%	14.3%
⑪ 他の途上国のことも知りたい。	14.3%	37.1%	28.6%	17.1%	2.9%
⑫ なんらかの国際協力をしてみたい。	25.7%	40%	22.8%	2.9%	8.6%
⑬ 青年海外協力隊員になってみたい。	8.6%	8.6%	37.2%	22.8%	22.8%
⑭ 私も、地球の一員である。	37.1%	42.9%	11.4%	5.7%	2.9%
⑮ この授業を受けることができてよかった。	45.7%	45.7%	8.6%	0%	0%

◎この4時間を振り返って、一番自分が大切だと感じたこと、思ったことを書いて下さい。

- ・バングラデシュのビデオを見て、人々の生活がよく分かった。物がなくても、みんな明るく前向きに生活しているように思えた。そういう面では、日本より幸せだと思う。(女子)
- ・世界中のいろいろな所でたくさん子どもたちが勉強もできずに過ごしていると思うと、自分たちはどんなに恵まれた環境で生活しているんだと思う。その分彼らに、できることを支援してあげたいと思います。(男子)
- ・今までなんでも手に入れることができるのが普通だと思ってた自分がイヤになりました。バングラデシュだけでなく、もっとほかの国のことも知りたいと思いました(女子)

資料4 4時限 配付プリント「 Bangladeshにおける日本のODA実績」

○ビデオに出てくる Bangladeshにおける日本のODA援助実績

- | | |
|-----------------------|---|
| (1) 教育・学校 | PTI (JOCV理科教師)、URC (JOCV理科教師)
ダッカ体育大学 (JOCV体育教師)
Bangladesh政府の教育担当専門家3名 |
| (2) 産婦人科病院の建物
人材育成 | ODA無償資金協力 (11.8億円) で2000年改修
医師、看護師育成 (専門家6人) |
| (3) ジャムナ橋 | ODA有償資金協力 長さ4.8km
215.62億円 (総事業費約750億円) |
| (4) 住民参加型村落支援プロジェクト | 末端行政と村落住民の調整、支援専門家2名 |
| (5) 安全でない井戸水 | 全国的にヒ素汚染がある。専門家1名 |

○ Bangladesh人民共和国 JICA協力隊概要 平成14年6月1日現在

- (1) 派遣中の隊員数：60名 (内女性36名、シニア2名)
- (2) 派遣隊員の累計：776名 (内女性285名、シニア26名)
- (3) 派遣開始の期日：昭和48年8月18日 (1973年)

参加者はおぼろげなイメージ

幾度か観光旅行で東南アジアを訪問した際、現地で見ると人々の生活や仕事の内容に日本との生活・経済レベルの格差を実感しました。貧困で哀れだとか不幸だとは思いませんでしたが、木々が伐採され荒れていく山や大企業をもたらす大気汚染・水質汚濁などに触れ、経済大国日本がもたらした影響が少なからずあると思うと心が痛みました。このような姿ではなくもっと日本と開発途上国との本当の幸福な関係はないものだろうか考えたものでした。この研修でも開発途上国の人々の真の幸福を願った貢献のあり方を見たい、そしてそれを生徒に伝え国際協力の理解に役立てたいと考えております。これまで特に国際理解教育や開発教育への取り組みはしていません。できればこの研修をきっかけに取り組んでいきたいと考えています。